

(様式6)

遊々の森における国民参加の森林づくり活動の公表 (協定の更新)

会津森林管理署は、下記のとおり遊々の森における体験活動に関する協定の更新をしたので公表します。

記

1 協定相手方の名称
会津若松市

2 「遊々の森」の概要

- (1) 位置 吹屋山国有林2林班い小班外
- (2) 面積 352.02 ha
- (3) 主な活動内容 市民の体験学習や野生動植物観察

3 協定項目
別添「協定書」(写)のとおり

4. 更新した理由

協定者は、平成16年3月30日に当署と協定を締結して以来、10年以上にわたり、当箇所において市民の体験学習や野生動植物観察等を実施してきました。

今般、有効期間の満了に当たり協定者に更新の意向を確認したところ、引き続き活動を実施したいとの意思表示がありました。

協定者の現在までの活動実績、活動意欲等より判断したところ、協定の更新は適当と認められることから、協定を更新致しました。

令和4年3月17日

会津森林管理署長 乾 光一

担当：森林技術指導官
電話：0242-27-3270

遊々の森における体験活動に関する協定書

会津森林管理署長（以下「甲」という。）と会津若松市長（以下「乙」という。）は、遊々の森における体験活動に関し、次のとおり協定を締結し、信義に従って誠実にこれを履行するものとする。

第1（協定の目的）

この協定は、協定締結者の役割を明らかにするとともに、協定締結者の連携及び協力により、本協定に基づく遊々の森における体験活動が円滑に実施されることを目的とする。

第2（遊々の森の名称、位置及び面積）

甲は、会津森林管理署吹屋山外1国有林2林班い小班外の352.02haを遊々の森として乙に活動の場として提供するものとする。

なお、遊々の森の名称は、「遊々の森 市民と共生の森」とする。

第3（全体活動計画書の提出）

乙は、活動の実施にあたって、別紙様式1により全体活動計画を作成し、甲と調整した上で、協定締結のあった日から14日以内に甲に提出するものとする。

第4（年間活動計画書の提出）

乙は、毎年度の活動の実施にあたって、別紙様式2により年間活動計画を作成し、甲と調整の上、前年度末までに提出するものとする。なお、初年度にあつては活動を実施する前までに甲に提出するものとする。また、年度途中で活動内容を著しく変更しようとする場合は、あらかじめ甲と連絡及び調整を行うものとする。

第5（活動実績の報告）

乙は、毎年度の活動実績について、別紙様式3により年度末までに甲に報告するものとする。

第6（活動の実施）

- 1 乙は、別紙様式1及び2の計画に沿って活動を実施するものとする。
- 2 甲、乙及び活動実施者は、適切な連絡調整を図りながら、活動の円滑な実施に努めるものとする。
- 3 乙は、活動実施者に対し、活動を行う森林が各般の法令等の制限を課せられている場合にあつては、その法令等による規定を遵守させ活動を実施するものとする。

第7 (入林の際の連絡・調整)

乙は、入林する場合にあつては、その都度、事前に当日の責任者名、入林者数、活動内容、入林期間等を、甲に書面 (FAXによる場合を含む。) 等により連絡し、必要な調整を行うものとする。また、乙は、責任者に活動参加者名簿を携行させるものとする。

第8 (安全確保等の措置)

- 1 乙は、活動の実施の都度、実施場所ごとに責任者を配置するとともに、事故の未然防止に必要な措置、事故発生時等の連絡等の緊急体制の確保及び事後措置等について万全を期すること。
- 2 乙は、本協定に基づく活動の参加者の安全を責任をもって確保するものとする。万一、活動に伴い事故が発生し、活動参加者が負傷等した場合の補償等の責任の所在について、あらかじめ明確にしておくこととする。

第9 (経費の負担)

活動の実施に要する経費は、乙が負担するものとする。

第10 (立木竹等の所有権等の権利)

乙は、協定締結期間中及び協定締結終了後のいずれにおいても、実施箇所の土地、立木等についての所有権及び、活動により生ずる全ての権利を有しないものとする。

第11 (施設の設置等)

- 1 乙は、活動に必要な施設を設置する場合は、仮設工作物等簡易なものであつて、土地の形質変更が軽微なものに限るものとし、施設の設置計画等についてあらかじめ甲に連絡し、調整を行うものとする。
- 2 乙は、活動が終了した場合には、設置した施設を撤去するものとする。ただし、甲がその必要がないと認めたときはこの限りではない。

第12 (法令等の遵守)

乙は、活動の対象となる国有林野に係わる法令等による規定を遵守するものとする。

第13 (山火事防止等の措置)

- 1 乙は、当該実施箇所及びその周辺において、土砂の崩壊もしくは流出、火災等の災害又はその他の被害が発生し、又は発生のおそれがある場合には、遅滞なく甲に届け出るものとする。

- 2 乙は、活動参加者に対して、当該箇所及びその周辺における火災防止に十分留意し、山火事防止に万全を期すとともに、万一、山火事が発生した場合には、直ちに甲及び消防関係機関等に連絡するものとする。
- 3 乙は、活動参加者に対して、活動に伴うゴミの始末等の注意を呼びかけ、当該実施箇所及びその周辺における環境美化に努めるものとする。

第 14 (損害賠償)

乙及び活動実施者は、その責に帰すべき事由により、立木竹、その他の国有財産に損害を与えた場合には、これに相当する金額を補償するものとする。

第 15 (活動の円滑な実施への協力)

甲は、活動が円滑に実施されるよう、活動の開始に当たっての現地案内及び説明並びに活動計画の策定に当たっての助言等の協力を行うものとする。

第 16 (遊々の森の適切な管理)

甲は、遊々の森が国民により自主的に整備等されるものであることを踏まえ、適切な管理を行うものとする。

第 17 (協定の破棄等)

- 1 甲は、次の場合、協定を破棄することができるものとする。この場合、甲は乙に事前に通知するものとする。
 - (1) 活動対象となる国有林野に係わる法令等に違反する行為があった場合。
 - (2) 協定に基づいた森林づくり活動の実施の見込みがない、又は活動の円滑な実施に著しい支障が生じたものと甲が認める場合であって、乙から甲に対し別紙様式 4 による協定解消に係る申請がない場合又は申請内容が妥当と認められない場合。
 - (3) 遊々の森の全部又は一部を、国又は地方公共団体において公共用、公用又は国の公益的事業の用に供する必要が生じた場合。
 - (4) 国有林野事業の管理経営に支障を及ぼし、又は支障を及ぼすものと認められる場合。
 - (5) 協定締結による国民参加の森林づくり実施要領第 5 の 2 の団体の条件の全部又は一部を満たさないことが明らかになった場合。
 - (6) 協定締結者としてふさわしくない行為をしたことなどにより、協定締結者として不適当であると認められる場合。
- 2 乙は、やむを得ない事情により協定に基づいた森林づくり活動の実施が困難となった場合又は活動の円滑な実施に著しい支障が生じた場合で、今後の活動実施の見込みがない場合、別紙様式 4 により協定解消の申請書を甲に提出するものとし、甲は乙からの申請内容が妥当と認められる場合、当該協定を解消するものとする。



第18 (協定の有効期間)

- 1 この協定は、令和4年4月1日から令和9年3月31日まで効力を有するものとする。
- 2 この協定は、乙から活動の申し出があり、甲がこれを認める場合は更新できるものとする。

第19 (その他必要と認められる事項)

この協定の実施につき疑義の生じた事項又はこの協定に定めのない事項については、その都度協議して定めるものとする。

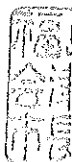
上記協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、両名記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

令和 4年 3月17日

(甲) 福島県会津若松市追手町5番22号
会津森林管理署長 乾 光 一



(乙) 福島県会津若松市東栄町3番46号
会津若松市長 室井 照平



別紙 林小班一覽

林班	小班	樹種	面積(ha)	
2	い	スギ	0.10	
	ろ1	その他広葉樹外	1.39	
	ろ2	アカマツ外	2.14	
	は	スギ	0.12	
	に	スギ	0.63	
	ほ1	その他広葉樹	1.91	
	ほ2	その他広葉樹	2.28	
	ほ3	その他広葉樹	2.65	
	ほ4	その他広葉樹	2.40	
	へ	スギ外	0.34	
	と1	アカマツ外	4.07	
	と2	その他広葉樹	1.53	
	ち	スギ	0.47	
	り	その他広葉樹	0.54	
	ぬ	その他広葉樹	0.36	
	る	その他広葉樹	0.16	
	よ1	アカマツ外	0.58	
	よ2	アカマツ外	0.41	
	た1	スギ	0.83	
	た2	スギ外	1.08	
	た3	スギ	0.30	
	た4	スギ	0.14	
	小計		24.40	
	3	い	その他広葉樹	2.15
		ろ	スギ	0.74
		は	その他広葉樹外	0.17
		に1	その他広葉樹外	0.12
		に2	その他広葉樹外	0.40
ほ		その他広葉樹外	0.66	
小計			4.24	
5	い	アカマツ外	7.20	
	は	スギ	0.24	
	に	スギ	0.40	
	ほ	アカマツ外	2.92	
	へ	コナラ外	1.27	
	と	スギ	0.31	
	ち	アカマツ外	5.38	
	り	アカマツ外	7.58	
	ぬ	アカマツ外	31.08	
	る1	アカマツ外	6.97	
	る2	アカマツ外	2.05	
	わ	スギ	2.19	
	か	スギ外	0.50	
	よ	アカマツ外	11.54	
	た	スギ	0.55	
	れ	アカマツ外	7.67	
	そ	スギ	1.03	
	つ	スギ	0.70	
	ね	スギ	0.87	
	な	スギ	1.33	
	ら	アカマツ外	8.20	
	む	スギ	1.97	
	う	コナラ外	2.28	
	の	その他広葉樹外	0.31	
	お	スギ	0.55	
	や	スギ	0.29	
	ま	その他広葉樹外	1.10	
	け	その他広葉樹外	0.90	
ふ	スギ	1.40		
こ1	その他広葉樹外	0.60		

林班	小班	樹種	面積(ha)	
5	こ2	その他広葉樹外	0.72	
	え	スギ	0.43	
	て	スギ	0.08	
	あ	その他広葉樹外	0.48	
	さ	その他広葉樹外	1.05	
	き	その他広葉樹外	1.33	
	ゆ	スギ	1.74	
	め	その他広葉樹外	11.40	
	み	スギ外	0.98	
	ひ	その他広葉樹外	0.76	
	も	その他広葉樹外	2.42	
	せ	スギ外	1.08	
	小計		131.85	
	6	い1	スギ	0.29
		い2	スギ	1.65
		い3	スギ	0.16
		ろ	スギ	0.29
		は	その他広葉樹外	0.39
		ほ	カラマツ外	1.81
		へ	スギ外	0.25
と		アカマツ	2.34	
ち1		アカマツ外	0.20	
ち2		アカマツ外	2.83	
ち3		スギ外	0.04	
り1		スギ	0.61	
り2		スギ外	0.47	
り3		その他広葉樹	0.67	
ぬ		アカマツ外	3.51	
る1		スギ	0.23	
る2		スギ外	0.16	
る3		スギ	0.89	
わ		スギ	1.46	
か		アカマツ外	4.96	
よ1		カラマツ外	6.63	
よ2		スギ外	0.61	
た		アカマツ外	6.19	
れ1		アカマツ外	4.90	
れ2		スギ	0.25	
れ3		キリ外	0.77	
そ		スギ	1.81	
つ1		スギ外	2.54	
つ2		スギ	0.45	
ね		アカマツ外	3.94	
な		その他広葉樹外	11.06	
ら1		スギ	1.11	
ら2		スギ	0.46	
ら3		スギ	0.83	
む1		カラマツ外	0.77	
む2		その他広葉樹外	1.61	
む3		スギ	0.55	
う1		アカマツ外	2.73	
う2		スギ外	2.28	
う3		スギ	1.40	
う4		その他広葉樹外	4.24	
う5		アカマツ外	2.42	
の1		アカマツ外	1.32	
の2		スギ	0.70	
お		スギ外	2.95	
く		スギ	1.26	
や1		その他広葉樹外	2.02	

林班	小班	樹種	面積 (ha)
6	や2	スギ外	2.79
	ま	スギ	1.44
	け1	スギ	1.66
	け2	その他広葉樹外	3.90
	ふ1	その他広葉樹	2.18
	ふ2	スギ	0.33
	え	アカマツ外	1.69
	て	スギ	0.39
	あ	その他広葉樹外	0.35
	さ	アカマツ外	2.03
	き	その他広葉樹外	3.34
	ゆ	アカマツ外	1.22
	め	その他広葉樹外	1.44
	小計		111.74
7	い	その他広葉樹外	15.22
	ろ	その他広葉樹外	9.05
	は	その他広葉樹外	3.52
	に	その他広葉樹外	1.21
	ほ1	アカマツ外	0.95
	ほ2	スギ	7.37
	へ1	アカマツ外	1.74
	へ2	スギ	0.48
	と	その他広葉樹外	0.56
	ち	スギ外	3.05
	り	アカマツ外	1.75
	ぬ	スギ外	3.84
	る1	アカマツ	0.54
	る2	スギ	0.70
	わ	スギ	0.30
	か	スギ	3.32
	よ	スギ	1.23
	小計		54.83
9	い	その他広葉樹外	0.56
	ろ1	スギ	1.11
	ろ2	アカマツ外	2.33
	ろ3	スギ	0.64
	ろ4	その他広葉樹外	1.04
	は1	スギ外	5.37
	は2	スギ	1.60
	に	スギ外	4.61
	ほ	スギ	2.17
	へ	アカマツ外	1.00
	と1	アカマツ外	3.99
	と2	スギ	0.54
	小計		24.96
合計		352.02	

森田印

森田印

遊々の森 市民と共生の森 位置図
 吹屋山外1国有林 2林班い小班外 面積 352.02ha



活動計画

1. 自然と親しむ場としての活用

林内を散策しながら、樹木、植物、小動物などの観察や森林浴を通じて、自然と親しむ場としての活用を図る。

2. 林業体験の場としての活用

林内での刈払いや枝打ちなどの保育作業や植栽などの林業体験を通じて、林業に対する理解を深めるとともに、森林を育てる大切さを学ぶ場としての活用を図る。

3. 歴史・文化の学習の場としての活用

当区域周辺に存在する歴史的財産や地域文化等について、地域住民との交流により学習する場としての活用を図る。

4. 学校教育の場としての利用

市内の小中学校はもちろん、市外・県外からも幅広く受け入れ、児童・生徒が自然の中で林業体験をはじめとする学習の場としての活用を図る。



施設の整備計画

1. 「遊々の森」看板の設置

林道横向線起点付近および併用林道不動川線終点付近に「遊々の森」の看板を設置する。

2. 広場の整備

南口の入口となる併用林道不動川線沿線に、体験活動等の拠点または休憩施設として利用できる広場を確保する。

3. 遊歩道の整備

林道横向線と併用林道不動川線を軸に、既存歩道を利用した回避できる遊歩道を整備し、体験活動や自然散策等における利便性の向上を図る。

4. 案内標識の設置

遊歩道の整備にあわせて、案内標識を整備する。

5. ベンチの設置

遊歩道沿線で見晴らしの良い箇所などに簡易なベンチを設置し、休憩施設を兼ねた利活用を図る。